

様式（第8条関係）

審 議 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等の名称	第1回益田市総合振興計画審議会
開催日時	令和2年2月20日（木）13：30～16：00
開催場所	益田市役所3階 大会議室
出席者	<p>[審議会委員] 藤原眞砂会長、藤井幸子副会長、森本恭史委員、岩本誠委員、桂木正則委員、村岡詩織委員、末成弘明委員、吉村里恵委員、石川洋紀委員、草野祐一委員、豊田芳明委員、廣兼重孝委員、中村克也委員、舟橋道恵委員、大賀肇委員 ※中野純委員は欠席</p> <p>[事務局] 益田市 島田政策企画局長、志田原政策企画課長、山本総合戦略室長、岡藤主任主事 コンサル ランドブレイン株式会社</p>
議題等	<ul style="list-style-type: none"> ・第6次益田市総合振興計画について ・アンケート調査結果について ・ワークショップの概要について ・基本構想（案）について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0名
問合せ先	政策企画局政策企画課 電話 0856-31-0121

審議経過

1	開会
2	市長あいさつ
3	辞令交付
4	委員紹介
5	会長及び副会長選任
6	会長及び副会長あいさつ
7	第6次益田市総合振興計画策定に係る諮問について
8	議題
	(1) 第6次益田市総合振興計画について
	<p>第6次益田市総合振興計画について、事務局より説明（資料1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度を初年度とする第6次益田市総合振興計画と次期総合戦略を一体的に策定することで、市民により分かりやすい計画とする。 ・今回策定する計画は、国連のサミットで採択されたSDGsを参考に「益田市版SDGs」を設定し、基本構想部分に盛り込む。 ・策定体制については、庁内の作業チーム（係長級職員）で資料作成、課題の検討等を行い、その結果を策定委員会（副市長、教育長、各局部長）へ報告し、検討・審議する。庁内で作成した計画案について、本審議会で審議いただき、最終的には市議会へ説明を行う。 ・市民参画のために、市民アンケートやワークショップを実施する。
委員	SDGsについて、どういう流れでこの考えが登場したか、説明してもらいたい。
事務局	SDGsは国連が提唱したもので、世界的な貧困など、深刻な問題を解決するために、17のゴールを設定している。世界的な目標ではあるが、人口減少問題などの解決にもなるという考え方から、益田市でも意識する必要があると考えられるため、計画にも盛り込むこととした。

委員	総合戦略の審議会は9月に第2回が設定されている。総合計画審議会の4回目を実施したあとに総合戦略審議会を設定した方が良いのではないかと。
事務局	第2回の開催については、総合計画審議会の進捗状況をみながら内容を調整する。
委員	SDGsについて、絵図で示したようなわかりやすい資料がある。付け加えさせていただけると嬉しい。
委員	M-SDGsとして、既に5つのゴールが設定されているように見受けられるが、なぜ、この5つに設定したのか。
事務局	お示ししているものは例である。今後、ワークショップや市民アンケート結果などで、内容を固めていく。
委員	このような会で良くあるのが、審議会自体の位置付けや審議の目的がはっきりしていないがために、審議会委員にとって判断に迷いが生じる瞬間があることである。そのため、審議会の全体的なプロセスを示していただくことで、今後6回程度開催する審議会の中での審議会委員の役割も変わってくるかと思うので、よろしくお願ひしたい。
事務局	ひとまず直近では、第2回、第3回の審議会において、各分野別の計画の柱を決める予定である。
委員	会議ごとに確認があると良い。
委員	SDGsの考えを取り入れるとのことで、世界的な潮流を反映したものかと思うが、10年前から施策の進捗状況をしっかり確認して頂きたい。また、10年前と現在でどう変わったのか比較材料があれば良い。
事務局	現在、第5次総合振興計画の施策の評価・検証をしているところである。事業として削るものもあれば、追加することも必要であると考えている。策定スケジュールにもあるが、3月中には整理を行う予定である。
委員	実施計画はどのように作成・作業されるのか。
事務局	資料1の2つめの項目にイメージを記載している。ハード事業など事業費が大きいものなども対象として、庁内で作成する予定である。ちなみに、審議会に諮るのは基本計画までであり、実施計画は基本計画の後に作成するものである。
委員	総合戦略の策定イメージ図があるが、この位置づけを変更する理由を教えてください。
事務局	総合振興計画は総合戦略と内容が重複する部分がある。そのため、同一で位置づけたほうが、管理がしやすいという点がある。今回は、総合振興計画の第3章に総合戦略の章立てを入れることとしている。総合戦略の基本的な目標の部分を3章に落とし込むイメージである。
委員	とてもすっきりした印象を受ける。私たち市民が受ける印象は、総合振興計画と総合戦略の位置づけがややこしいということである。
委員	最終的には前回のような総合振興計画を冊子として作成し、この中に総合戦略を入れ込むというイメージで良いか。
事務局	お見込みのとおりである。
委員	総合振興計画では基本計画、実施計画といった構成となっているが、総合戦略は何のために必要なのか。
事務局	総合振興計画はまちづくりの指針となる最上位の計画である。一方で、総合戦略は、人口減少を抑制するための計画として5年前に初めて策定した。人口減少に関わる重点的な施策を総合戦略に位置付けている。
委員	人口減少問題に特化したようなものが位置付けられるイメージでよろしいか。
委員	つまり、今後、まちの規模が縮小していく中で、人口減少をいかにとどめ、生活機能を維持していくかということに対して、思い切った施策が出てくるということによろしいか。

事務局	お見込みのとおりである。
委員	総合戦略は、人口減少をとどめるものだけに特化するものか。一方で、総合振興計画は、基本構想を推進する為の大きな目標としての柱立てがこの基本目標ということであり、総合戦略のように人口減少をとどめることだけを求めているという意味ではないということでしょうか。
事務局	お見込みのとおりである。
委員	総合振興計画の審議会は、総合戦略の審議会と平行して行われるのか。
事務局	総合戦略について、総合戦略審議会で検討し、そこで検討したものを総合振興計画審議会で説明し、意見をもらうことで、同時に進める形となる。
委員	総合戦略審議会は、現在の計画の進捗状況をチェックするという位置づけなのか。
事務局	お見込みのとおりである。 なお、令和3年度に総合振興計画と総合戦略は同時にスタートする。
(2) アンケート調査結果について	
<p>アンケート調査結果について、事務局より説明（資料2、参考資料2-1、2-2、3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・18歳以上の市民及び市内の高校に通う2年生を対象にアンケートを実施した。 ・市民アンケートでは、第5次総合振興計画の具体施策106項目について、実感度及び充実期待度が「高い」から「低い」の5段階で評価をいただいた。 ・実感度の高い事業は、萩・石見空港マラソン等のスポーツイベントの推進、グラントワを中心とした文化振興に関する事業。実感度の低い事業は、路線バスなどの公共交通の利便性、観光に関する事業だった。 ・充実期待度の高い事業は、グラントワを中心とした文化振興、萩・石見空港の路線維持、災害・防災対策に関する事業だった。 ・市の良さとしては、風土や気候の良さ、治安の良さが、不満としては、公共交通の利便性、就職環境が挙げられた。 ・高校生アンケートでは、市の良さとして、風土や気候の良さが、不満として、娯楽施設の充実、公共交通の利便性が挙げられた。 ・将来の居留意向については、市内出身の生徒の約3割が将来益田市で暮らすと回答している。また、「将来、益田市とどのような関係を持つことが考えられるか」という問いには、6割が「定期的に益田市の友人、知人と交流したい」と答えている。 	
委員	充実期待度はわかりやすいが、実感度についてはどういった意味なのか。要するに、市民が施策をどのくらい実感しているのかといった認識で良いか。また、グラフの第4象限に示されている施策について、重点的に取り組まなければならないものということでしょうか。
事務局	お見込みのとおりである。
委員	市民アンケートについて年齢構成を教えてください。それによって回答結果の意味も変わってくるものと思われる。
事務局	回答者の約6割が60歳以上である。また、39歳以下は約15%、40歳～59歳が約23%となっている。また、性別の割合として、男性が44.8%、女性が53.8%となっている。
委員	回答率が約30%となっているが、きちんと評価できるだけの票数が集まったのか。
事務局	益田市の人口規模からすると382票の回答数があれば有意と言える。また、回答率30.3%という結果は、あらかじめ見込んだ結果とほぼ同じであり、今回配布した1400票についても、そのうち30%の回収見込みであれば、計算上424票となり、これは382票を上回っていることから、統計学的にも問題ないと考えている。
委員	年齢別の分布を考慮して配布しているのか。
事務局	今回は18歳以上の市民から無作為に抽出して配布を行っている。 60歳以上の回答数が多い理由としては、アンケート票を郵送で配布したため、

	比較的、家にいる時間の長い高齢者が回答しやすい環境にあることも影響していると考えられる。なお、他市町村のアンケートにおいても、同様に高齢者の回答数が多くなる傾向にある。今回、委員の皆さまにお示しした資料は、アンケート報告書の概要版であるため、別途、年齢別によるクロス集計を実施している。
委員	アンケートの性質上、偏りが生じてしまうのは仕方がないし、数字だけで何かを読み取ろうとすることに限界がある。世代によって結果が偏ってくると思うのでクロス集計を行うことは重要なことだと考えている。 また、CS分析において、充実期待度が低いもの、実感が低いものも、抽出することが重要であると考えている。人口減少問題がこの10年で一般化されたように、10年後に問題として表面化する問題が隠れている可能性もあるので、第3象限にどういったものがあるのかも分析してほしい。
委員	若い人たちの実感度と充実期待度を算出すると傾向も変わってくる。どのような分類が第3象限に固まっているかなども分析をしてみると良いと思う。
委員	CS分析において、加重平均値が出ているが、P6の割合のパーセントとの違いは何か。
事務局	加重平均値は、「高い」～「低い」のそれぞれの選択肢に、「-2」～「2」までの点数化を行い、回答数を掛け合わせて算出している。一方で、P6の割合について、上位3つというのは、「高い」または「やや高い」の回答数を全回答数で除したものの、下位3つというのは、「低い」または「やや低い」の回答数を全回答数で除したものである。
委員	資料作りの基本として、加重平均値の算出方法など、わかりやすく示していただきたい。
委員	アンケートの全回答数のうち60歳以上が6割となっている。若い世代の方のご意見はなかなか反映されていないのではないかと考えている。
事務局	若い世代についてもクロス集計によって分析する。
委員	CS分析について、7つの基本目標単位で集計を行うと、大きな特徴が分かるかもしれない。
委員	私が回答者であれば、よくわからない項目については、「普通」に丸をしていくと思う。これだけを判断して決めていくということにはならないと思う。
委員	年齢層も重要と思うが、地区別も重要かと思う。こちらのクロス集計もしていただけたらと思う。
事務局	益田市を中心部（益田地区、吉田地区、高津地区、安田地区）とそれ以外の中山間地域に分けた場合でのクロス集計も行っている。
(3) ワークショップの概要について	
ワークショップの概要について、事務局より説明 ・第1回を3月、第2回を4月、第3回を6月に実施する。 ・第1回と第2回で市の将来像について、第3回で将来像の実現のためにできることについてテーマに取り上げ、意見をいただく。	
委員	ワークショップでも、アンケート調査の結果を報告されるということか。
事務局	その通りである。 概要版という形でわかりやすい資料をお示しする予定である。
委員	ワークショップは、やり方によっては総論的な内容になってしまう。参加者に、子育てしている立場や、それぞれの地区としての立場など、どんな視点で意見を述べてもらうのか、焦点を絞ることで、具体的で政策に反映可能な意見を得ることができる。
委員	答えようのない結果が出てくることもある。出てきた意見については、ある程度絞った上で、今現在必要なものなのか、将来大事なものなのか、どうしようもないことなのかを整理すると良い。
事務局	検討したい。

委員	ワークショップを開くときに、資料を渡しておくのか。どのように資料を扱うか。
事務局	事前には配布せず、当日渡す予定だ。
委員	ファシリデータと呼ばれる人たちを、今回どうされるのか気になるところではある。事前申し込みなしでその日集まった人たちともしっかり話し合いができる場をつくるのが大事なので、そこに気を付けていただきたいと思います。
事務局	今回、ワールドカフェという手法を用いて、事務局の運営によりワークショップを実施する。
委員	ワークショップは、益田市の現状をしっかりと把握してもらい機会としても活用すべきである。参加者に趣旨をよく理解してもらうために、事前の導入部分で市の現状分析結果を伝えた方がよい。ワークショップで出たアイデアを事務局でどう引き取るか事前に考えておかないと、活かすところがなかったり、発言した方の満足感が得られにくい。
事務局	ワークショップに入る前にアンケートの結果も意識調査の結果としてお示ししようと考えている。
委員	ワークショップの実施は第1回から第3回となっているが、参加者は毎回同じなのか。
事務局	できるだけ同じ人が参加することを想定しているが、中には都合がつかない人もいるので、どの回でも参加できるようにしている。
委員	仮に、第1～2回を経験していない人が、第3回に初めて参加した際に、自分に何が出来るかを考えるというのは難しいのではないかと。
事務局	そのようなことも想定されるため、できれば通しでの参加をお願いしたいが、場合によっては1回でも2回でも良いと考えている。
委員	県立大学生が益田に来て、様々なワークショップや提案をしている。そこで出た提案も参考にさせていただければと思う。例えば、ホームステイをしながら益田市の潜在的な課題を大学生が考えているので、参考にされてみると良いかと思う。
事務局	ワークショップの案内チラシを追加で3枚ほど各委員にお配りしているので、是非周知をしていただきたい。
委員	社会福祉関連の窓口でも配布しても良いのではないかと。
委員	事業者へのヒアリングを予定していると記載がある。この概要を説明してほしい。
事務局	益田市に拠点を置く民間企業やNPO法人、公民館、市民活動家などに対して、活動状況や活動の問題点や課題、今後取り組みたいことなどをお聞きし、総合振興計画に活かすためにヒアリングを実施する。なお、ヒアリング対象者は、市中心部だけでなく、美都や匹見に対しても行う予定である。
委員	ヒアリング対象リストは見せて頂けるのか。医療や、特殊な数少ない現場の意見を吸い上げることは必要である。
事務局	案としてお示しすることはできる。また、何か他に団体にヒアリングしてはどうかという意見もお伺いしたい。
委員	先ほどの市民アンケートについて、ヒアリングしたついでに、アンケートに回答してもらうという手もある。
(4) 基本構想(案)について	
基本構想(案)について、事務局より説明(資料3) ・現在の社会の潮流を踏まえて、益田市の地域特性を、各種計画等から抜き出した現況のデータや市民・高校生アンケートの結果を基に抽出した。その結果から、益田市の主要課題として考えられる項目を、資料3の右側に示している。主要課題は、大きく7つの項目に分別した。	
委員	農業や卸売・小売業が特化しているとあるが、市民感情としてここは受け入れ難い。卸売・小売業の売上高が高く、特化しているとは良いことなのか。

事務局	あくまで、統計的に従業者数をベースに全国の従業者数と比較した特化係数から数字をはじいている。
委員	いかに稼げているかが重要だと思う。売上高が高い方が良いという判断は考え直した方が良いと思う。
委員	医療環境についてはアンケートで利便性が低いとある。逆に言うと、これ以上充実できると思っている方がいらっしゃるということだが、もう医療機能をこれ以上拡大することは厳しい状況だ。今あるものを守るので精一杯な状況である。 今後議論を進めていくうえで、絶対必要だがこれ以上水準を下げてはいけない産業と上昇させることのできる産業の2つがあると思う。それらをどう折り込んで計画の中に入れていくかしっかりと検討する必要がある。ちなみに、医療の現場において、担い手である開業医の先生が新たに開業する可能性は低くなっている。10年後はまだ持つが、20年後益田でどのくらい開業医が残っているのかという状況が間違いなくやってくる。悪い方の情報も吸い上げていかないと将来像がなかなか出てこないのではないかと思う。
事務局	開業医の分析はまだできていないので、そういった不足データについては作業チームで資料提供を呼び掛けている。データが充実すれば、よりよい情報の元で分析できるかと思う。
委員	現況分析の「学校再編が行われ」という部分を問題として捉えているが、記載の方法に気を付けてほしい。学校再編を行うこと自体が問題とは言えないからである。 さらに、児童生徒数が減少していることは、同時に教職員数も減少している。すなわち、今後は教職員の負担率も高くなるという問題もある。
委員	事業承継について不安な部分がある。H28年に独自で事業承継アンケートを行ったところ、456事業者のうち、自身の代で廃業するという割合が23.5%という結果になった。理由として、事業の将来性がない、業績が悪化している等もあるが、後継者がいないという理由が最も多く、半分近くを占めている。全国的に見ても2025年に70歳以上の経営者の企業が日本全国で245万社と言われており、うち半分の127万社が後継者未定と発表されている。このような結果から、地域の経済活動の停滞や、雇用の場が無くなることが心配される。
事務局	アンケート結果のデータを頂ければと思う。 なお、資料3については、現状のデータをもとに作成したものであるため、今後頂いたデータ等を基に更新する。
委員	様々なデータがあると思うが最大限活用して目標を設定できればと思う。私は子育て世代を対象に浜田と益田に住む母親3,300人程を対象に調査し、そのデータがある。データの使用の意向があれば参考にして頂きたい。その他、様々な情報を事務局に提供いただきたい。
委員	主要課題として、過去のデータを使って分析しているようだが、今後10年間の将来予測のデータ等も踏まえながら、議論をしたい。
委員	教育委員会には、将来の学級数などを推計したデータがあるため、是非活用して頂きたい。
事務局	頂いた情報をもとに、可能な限りデータ収集の対応を図りたいと思う。
委員	主要課題に記載されている文言について、一般的なものではなく、益田市の特徴を踏まえた言葉としてほしい。
委員	主要課題に掲げる文言の表現方法については、現時点においては、人それぞれの立場や職業の違いにより捉え方も全く違うので、審議会の最終段階の仕上げの作業の際に調整すれば良いかと思う。一方で、議論の土俵を合わせるためにも、データや現状分析がしっかりしていないと、噛み合っていない部分もある。 また、計画策定をきっかけに市民の活動を促進しよう、総合計画の策定そのものをどのようにムーブメントにしようという事務局の考えはあるか。 姫路市では、自称姫路市長プロジェクトというのがあり、自分が姫路市長だったらこういうことが気になる、こういうことをしたいということを市民が声を上げて発信する取組が行われている。事務局だけでムーブメントを起こすのは大変だと思うので、地域の興味のある方とタッグを組んで実施していくことが重要と思う。

9 その他
その他の審議事項なし
10 閉会